

大学の起業ファンドから出資受け新会社設立

崇城大学大学院工学研究科の古賀碧さん(24歳)は4月23日、微生物資材の研究開発および製造販売の新会社を設立した。

崇城大学の起業ファンド、SOJOスタートアップラボ(株)(熊本市西区池田4丁目、谷川多恵子社長)から出資を受け設立したもので、社名は(株)Ciamo(シアモ)。資本金1250万円。本社は熊本市西区池田4丁目の崇城大学池田キャン

パスG号館2階207号に置く。社長の古賀碧さんは同大学院応用生命科学専攻博士前期課程2年に籍を置く現役の大学院生。同社の主業務である微生物資材の研究開発および販売事業は、古賀社長が崇城大学起業部在籍時に国内のビジネスプランコンテストで2度の優勝を果たすなど高い評価を受けていたビジネスプランで、今回の会社設立を機に事業化に踏み切ったもの。同社では焼酎粕で培養する光合成細菌培養キット「くまレッド」を製造、販売しており、5年後に10億円の販売を見込んでいる。現在九州内15カ所で40の農家が参加し、同培養キットを利用した光合成細菌の実証実験が進行している。

光合成細菌は、農作物の成長促進や品質の向上に加え、水産、畜産分野では、飼料に添加することで病害を抑制する効果があることが近年明ら

かになり、農水産、畜産、医薬品、環境・エネルギーなどのさまざまな分野で応用が期待されている有用細菌の一つ。生産コストの高さが課題とされていたが、同社では焼酎粕を使った培養技術を開発したことで低コストでの製造を実現。安価な光合成細菌の生産を可能とした。古賀社長は「東南アジアに進出し事業拡大を図るとともに、世界の環境問題の解決を目指したい」と話している。